

策定年月	令和5年3月
見直し年月	令和 年 月

麦国産化プラン

産地名：伊万里市

（作成主体：伊万里市農業再生協議会）

1. 麦生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

<麦>

○現状

管内は中山間地域であり、以前より麦栽培については圃場条件が悪く振興できていなかった(特に小麦)。近年では、水田の高度利用を図らないことには水田農業の現状が逼迫しており、同時に水田の保持もままならない状況にある中、大麦振興を行ってきた。しかし現状は、中山間地域の麦栽培については足枷が多く、特に排水対策や労力コスト等、平坦地域と比較して分が悪く、推進拡大できる面積も限られているのが現状である。

そのような中でも、JAさがと播種前契約を結びマッチングした栽培を行うと同時に、以前より地元焼酎メーカーとタイアップし焼酎原料に適している品種の栽培を行い地産地消にも取り組んできた。

○課題

本来、農家の所得向上の観点から言えば小麦栽培を推進したいが、中山間地域では排水や収穫時期の穂発芽、水稻移植時期に影響を与えるため栽培が難しい。大麦についても、世界情勢の影響を受けやすい穀物である中、近年国産需要が多く求められ焼酎原料として「煌二条」と「サチホゴールド」を作付してきたが、収量については佐賀県域内をみても低収量で安定できていない。そのため、農家の所得向上のためにも、高収量の品種に転換する必要がある。

○取組方針

大麦の需要量が大幅に増加している中、JAさがとの播種前契約により令和6年産から実需者とマッチングし、安定した収量が見込める「はるか二条」に転換することにより収量及び品質アップを図る。

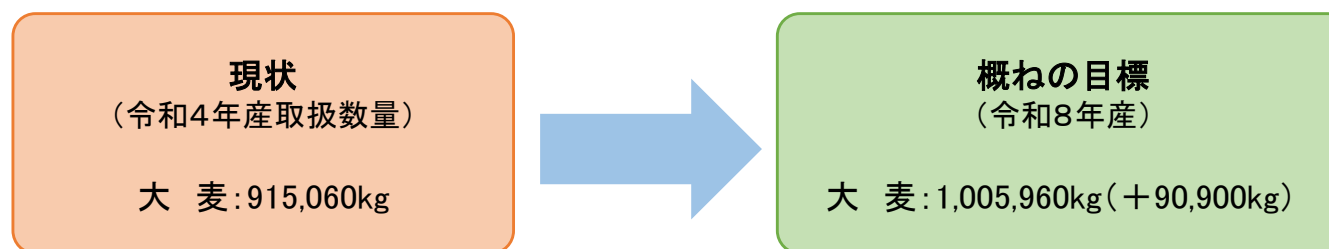
※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

<麦>

JA佐賀と播種前契約を結び、民間流通麦佐賀県連絡協議会および民間流通麦佐賀県意見交換会において、実需者の需要動向を把握し意見交換を行い、需要に応じた生産計画を策定する。



主要な実需者

○大麦: 非公表

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

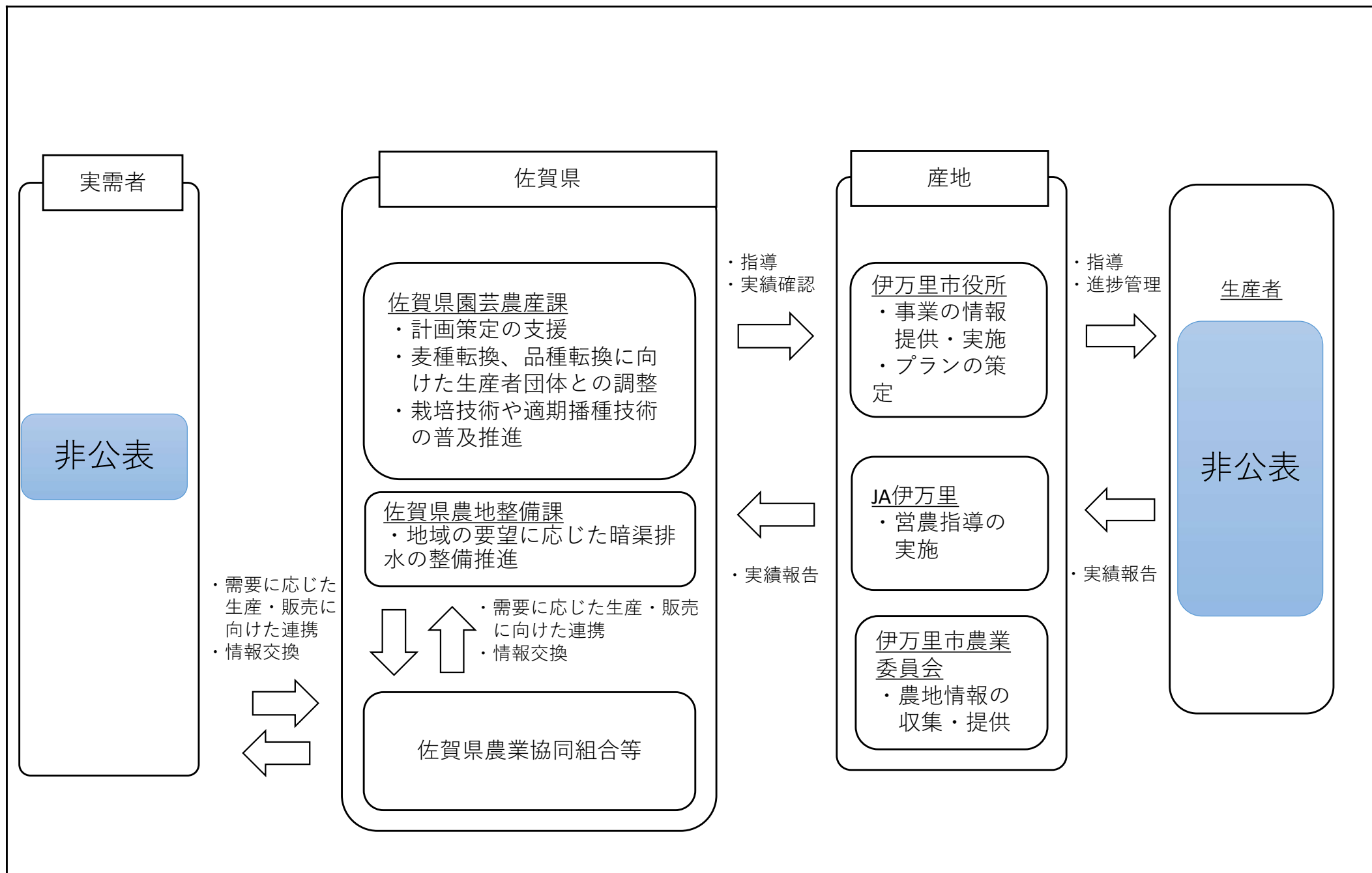
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。